

石見城跡

石見城は、1500年代に石見銀山と銀山の北西に位置する海岸の町仁摩との間の幹線道路の防御に使われていた高台の砦でした。仁摩は、1520年代後半から鉱山の支配権を巡って対立する一族と戦ってきた大内家の本拠地でした。石見城は、海拔 153m の岩だらけの露頭、竜岬山の頂上に築かれました。この丘は、その南と東の急峻な崖により、天然の要害となっています。これらの方角は、狭い頂にあった天守を防御するために尾根に沿って深い堀切を掘り、複数の土塁を築いた大内氏が増援していました。傾斜の緩やかな北側に入り口があったため、石見城は、主に南側から接近してくる敵から仁摩を防御するために建てられたことがわかります。この城は、石見銀山が 1600 年代初頭に徳川幕府（中央政府）に占領されてからはその重要性がなくなりました。今では自然に返っているその城址には、南側からの登山道で登ることができます。秋には崖に沿って蔦を伸ばすノウゼンカズラ（学名：Clematis grandiflora）が丘の中腹の一部を鮮やかなオレンジ色に染める花を咲かせます。